

モデル事業名	新たな小規模高齢化集落支え合いシステムの構築・実証プロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人 ほっとにしき
ホームページ	http://www.hotnishiki.jp/
所属/担当者	光貞正明
連絡先	電話番号 0827-72-2345 メールアドレス hot-n@mx71.tiki.ne.jp
活動地域	山口県岩国市錦町地域（旧錦町）

● 活動地域の概要

錦地域の集落は現在78集落存在するが、うち50集落が小規模高齢化集落、いわゆる『限界集落』となっており、昨年1年間で50集落のうち2集落が消滅している。(住民基本台帳上はまだ生活者がいる)

・高齢化率は53.3%と、県内でも最も高い地域のひとつとなっている。

高齢化率： 昭和30年 7.4% 昭和60年 24.2% 平成12年 40.8%

若年者比率： 昭和30年 35.2% 昭和60年 15.5% 平成12年 9.1% 平成21年 6.7%

・公共交通サービス(岩国市営錦バス)の受けられない集落も多く、基礎的條件の極めて厳しい山村地域ではあるが、県が平成19年度に実施した小規模高齢化集落調査結果においても、小規模高齢化集落の住民の8割以上が今後もできる限り今の集落住み続けたいという強い気持ちを持っている。



図13 調査対象世帯の永住意識 (世帯別アンケート) 84%の世帯が住み続けたいと回答

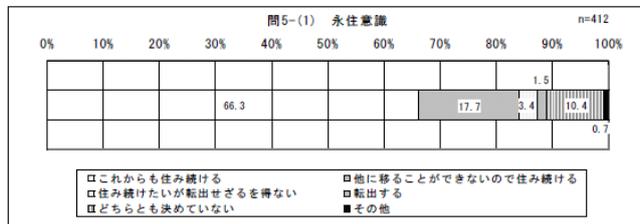
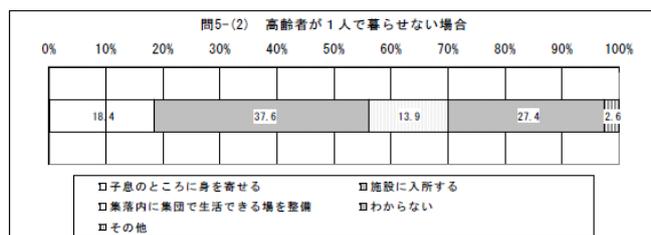


図14 高齢者が一人で暮らせなくなった場合の対応 (世帯別アンケート)



● 活動地域の課題

地域別高齢者生活実態調査により、高齢者の生活の安定化には、次のことが必要と判明した。

- ・地域住民の寄り合いの場の確保
- ・小さな農業(家庭菜園含む)の簡易支援作業
- ・日常生活での買い物や病院の薬配達制度
- ・日常生活での簡易な支援(布団干しや粗大ごみだしなど)

● 活動の内容

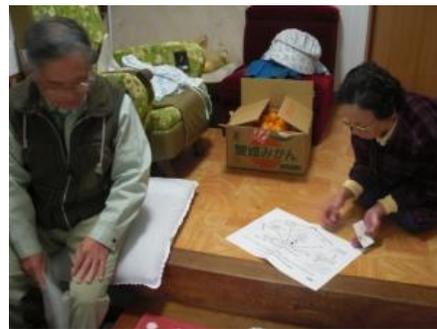
平成21年度

- ・新たな高齢者の『寄り合い制度』づくり
- ・新たな高齢者の見守りシステムづくり
- ・消滅が危惧される集落の歴史・文化等の保存活動

● 活動の成果

平成21年度

1 新たな高齢者の『寄り合い制度』づくり



実施時期：8月～12月

- ①錦町の宇佐地区を指定し、集落支援の方策等を模索。そのため一軒一軒聞き取り調査を実施。集落支援員の方と同道し、自治会の信用も得ながらの聞き取りは、非常に効果はあるものの、時間的な余裕が必要。
- ②地区ごとに行われているサロンの更なる充実を図り、移動サロンの計画実施。(2月)
- ③集落の棚卸し作業を通して、消滅危機にある集落の実態を把握し、新たな課題や今後の取り組みなどの方向性を模索した。(錦町後野 上沼田)

2 新たな高齢者の見守りシステムづくり

実施時期：9月～1月

高齢者の日々の生活を月に数回様子を伺いにサポーターが出かけ、生活支援をし、携帯電話を利用して暮らす家族へ画像・近況を通知するサービスを整備。(通称；元気ログサービス)

- ①システムの簡素化を図り、使用方法も見易くできるよう工夫を加えた。
- ②より実用化が図れるように、案内パンフレットを作成中。(発注中)
- ③対象地域をしぼり取り組むようにした。(宇佐地区)



3 消滅が危惧される集落のアーカイブづくり



実施時期：10月～2月

集落のアーカイブづくりの手法を検討・確立し、近年中に消滅の危機にある2集落程度において試行的に実施。

- ①錦町；大小丸 小小丸 高小屋 倉谷 右穴ヶ浴
- ②航空写真(1974年)を活用し、統計データの利用と地域住民の方々の聞き取り情報の落とし込みや過去の生活状況の実態を再確認

● 今後の課題及び展望

1 新たな高齢者の寄り合い制度作り（棚卸し活動）の現実

- ①高齢化率93%という状況の中、離村者とともに耕作放棄地の急増と原野化の進行
- ②石積み管理や水路管理の影響も出てきている。
- ③山林管理も十分でなく、特に離村者の山林は荒れ放題となっている。
- ④生活道路の除草には毎年多くの労力が必要となり、住民だけでは人手不足。
- ⑤離村者の廃屋も多く、管理は野放しである。
- ⑥買い物は移動販売車に頼ることが多く、後は病院通院のときのまとめ買いで補っている。
- ⑦自宅での過ごし方は、畑作業に多くを費やす。
- ⑧生まれ故郷は離れたくない。子どもたちは年中行事のときだけ帰ってくる。
- ⑨子どもたちは、交通事情や生活環境を考え、Uターンの見込みはない。
- ⑩10年後には消滅する危機感を抱いている。

・展望

- ①上沼田地区は祭り（神楽保存）が集落コミュニティの核となっている。
- ②神楽維持保存のため、世代間の交流が保たれているが、今後も重点的な対応がなされたい。
- ③神楽ファンも多いことや地域には愛着を持たれている。
- ④神楽がサロンの役割を持っている。

・課題

- ①対象住民への主旨周知と参加者募集がかぎであろう。
- ②高齢化の中、神楽保存継続運営を誰がするかが課題
- ③今後も神楽の存続がキーワードである。
- ④後野地区ではコミュニティー活動がいまいちで、誰かがキーマンになっていく必要がある。
- ⑤住民同士の関係がよい場合はよいが、田舎でいったんこじれると中々折り合いが難しくなる。

2 高齢者見守りシステムについて

①現在元気ブログへの活動状況はゼロ

21年度は15件 22年度無料体験加入から本登録への加入は10件の状況となった。

これは、対象者のかたが病院入院されたため、サポーターの活動はストップした。

- ②事務局や関係者はネット通信網を利用したとても良いシステムと認識しているが、利用者においては理解が得られず、加入が伸びてこない。

- ③独居老人宅への、定期的な訪問はこれからも必要である。

現在「サスケ・早助」という緊急通報システムが、市の助成を受けて65歳以上の独居老人を対象に普及している。月々500円の負担で、緊急時や生活サポート相談等を受けている。

元気ブログに比して、お年寄りの方にとっては頼りになっているようだ。

・課題

- ①加入システムの簡素化と効率的なPR活動が必要
- ②訪問サポーターが専門的献身的に取り組んでいかなければいけない
- ③通信方法や受け入れ方法の効率化を図る

3 消滅が危惧される地域のアーカイブ作りについて

現状

- ①地域へ入り込んで、少人数の中での情報収集は大変な労力である。

- ②行政が支援をしながらこのことに取り組むことは難しいが、NPOや民間の者が取り組むことは、とても良い。

- ③独居老人のかたは、体が不自由、生活が困難でもふるさとを離れがたく居住しておられる

課題

- ①小規模高齢化集落では、地元の方の人数が少ない中で情報収集は大変である。

- ②情報を得やすくするための、過去の情報や地図があれば、意見の吸い上げがうまくいくことが多い。

- ③単純に入り込むより、人と人とのつながりで口コミがあると情報は得やすい。人間関係や照会が大切だ。

- ④アーカイブ作りは、よく取り入れられることが多いが、出来上がったものをいかに活用していくかが大きな課題といえるようだ。特に地元の小中学校への副読本としての活用など、学校教育として取り入れていくことが大切と思われる。